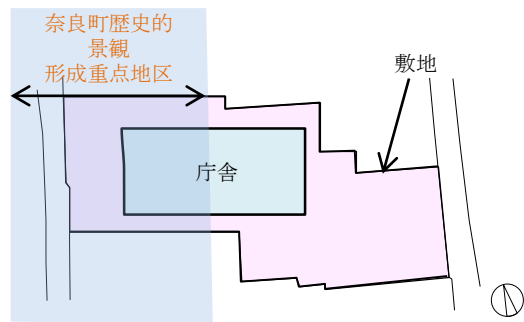


景観

一町並み形成

奈良地方気象台の事例

敷地の西半分は「奈良町歴史的景観形成重点地区」に指定されています。敷地は勾配屋根の宅地に囲まれ、地区内では敷地境界からの距離によって建物に高さ制限が加わり、原則として4~5寸勾配の日本瓦葺き屋根が指定されるなど様々な制限があります。そのような条件から、近隣への影響に考慮した設計が求められました。



敷地と景観地区の関係

景観に対する工夫

外観は白・茶・灰色系統の色彩を基本としました。屋根瓦はこの地域によく見られるいぶし瓦、敷地境界には伝統的な格子塀、外壁は漆喰をイメージした白色とし、町並みの連続性を確保しています。

敷地西側に庭を設け、庁舎をセットバックさせることにより、高さ制限をクリアしています。今回の施設整備は「測風塔」と呼ばれる風向きや風速を測定する施設を含めた整備でしたが、従来の町屋の木造建築にはないこの塔を目立たせないように色彩を工夫しています。



東側外観



▲西側外観

所在地	奈良県奈良市西紀寺町12-1
敷地面積	1,742㎡
建築面積	599㎡
延べ床面積	1,388㎡
構造	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
階数	2階建(地下1階)

この建物について

旧・奈良地方気象台庁舎の耐震不足、老朽・狭隘化によって移転建替を行いました。気象台は災害発生時に様々な活動を行うため、耐震性能などの必要な機能を確保した施設として整備しています。日常業務の効率性の確保や歴史的景観・住環境・環境保全に配慮した設計が特徴です。